2022年度

大阪経済大学　大学院

経済学研究科　経済学専攻　博士前期課程

演習担当者一覧

【出願にあたっての注意事項】

◎出願の際は必ず、本学入試情報サイト(https://www.osaka-ue.ac.jp/entrance/admissions/graduate/)で最新の情報を確認した上で志望する教員名を願書に記入してください。
※担当教員は、変更になることがあります。

◎研究コースおよびベーシックコースは、全教員が担当します。税理士養成コースは、氏名欄に「★」がある教員のみ担当します。

◎研究コースおよび税理士養成コースの志望者は、志望する指導教員名を１名のみ願書に記入してください。

◎ベーシックコースの志望者は、第３志望まで願書に記入してください。ただし、第２志望・第３志望でも入学する意思がある場合に限ります。

【お知らせ】

◎教員との個別面談を希望する場合は、上記本学入試情報サイトよりお申し込みください。
出願前の個別面談が必要かどうかは、各教員の「志願者へのメッセージ」をご確認ください。
※受付期間にご注意ください。

◎2021年度のシラバス、授業科目、時間割は、本学WEBサイト大学院紹介ページ(https://www.osaka-ue.ac.jp/education/graduate/)から閲覧できます。

●更新履歴
2021.11.18　一覧より削除：戸部真澄教員

担当教員	浅野　敬一
テーマ	アメリカ経済史を中心に、経済のミクロ基礎といえる企業の役割を考察する。
担当科目	西洋経済史Ⅰ・Ⅱ
受講についての 必要な予備知識など	【準備学習について】 ヨーロッパ・アメリカの経済史の基本事項を理解していることが前提となる。そのうえで、事前にテキストを読み、レジュメ作成と発表準備を行うことが必要となる。 【到達目標について】 １．資本主義の形成から現代に至る過程を理解すること。 ２．特定の問題について、１．に基づく独自の見解を提示できること。 ３．修士論文を執筆するための調査方法や論文の書き方を習得していること。
評価の方法	発表、質疑応答および論文の内容
講義計画	1年次は、ヨーロッパ・アメリカの経済史の重要事項（日本についても関連する事項を含む）を取り上げるとともに、企業の役割に着目した文献をもとにした議論を行う。２年次は、主に、各受講者の関心に応じた論点について検討する。
志願者へのメッセージ	出願前の個別面談を必須とします。修士論文で取り組む課題を明確にした上で、個別面談をメールによりお申し込み下さい（k.asano@osaka-ue.ac.jp）。

担当教員	伊藤　大一
テーマ	現代福祉国家の国際比較
担当科目	社会保障論Ⅰ・Ⅱ
受講についての 必要な予備知識など	【準備学習について】 テキストの範囲についてのレジュメの作成を必須とする。 【到達目標について】 大学院生マスターとしての基本力量を獲得すること。基本文献の輪読、少人数指導によって綿密に指導する。
評価の方法	出席および報告内容
講義計画	現代の福祉国家は大きな再編をむかえている。その再編の方向性は、これまで異なる政策体系とされてきた社会保障政策と労働政策との統合化が進展していることである。本演習では、基本文献の輪読を中心に、各自の報告をもとに進める。なお、どのような文献を読んでいくかは、受講生と共に決定したい。
志願者へのメッセージ	

担当教員	上宮　智之
テーマ	イギリス経済思想史を中心に、経済学の発展や主流派の変遷について学ぶ。
担当科目	経済学史Ⅰ・Ⅱ、外国文献研究Ⅰ・Ⅱ(英書)
受講についての 必要な予備知識など	【準備学習について】 学部レベルのミクロ経済学、マクロ経済学理解。一定以上の英語力、高校レベルの世界史の知識。 【到達目標について】 （1）経済学の発展・変遷についての大きな流れについて理解する。 （2）修士論文の目次および各章の構想を確定する。
評価の方法	発表内容およびレポートによって総合的に判断する。
講義計画	スミス、リカードゥ、マルサス、ミル、ジェヴォンズ、マーシャル、ケインズなど、主なイギリス経済学の流れについての基礎的な文献を輪読し、経済学史についての基礎知識を習得する。そののち、受講生がみずからのテーマに沿って選択した経済学古典の輪読発表を繰り返し（イギリス経済学者に限定はしない）、これを修士論文執筆へとつなげる。なお、過去の経済学や政策に関する知識を得るだけではなく、それらを通じて現代の経済学や政策のあり方、妥当性、問題点について考察することも本演習の目的である。 【年間(学期)計画】 第１回　年間スケジュール確定に向けた打ち合わせ 第２回ー第１４回　受講生による修士論文構想の研究報告 第１５回　修士論文テーマの発表
志願者へのメッセージ	常識を疑い、みずから調べる姿勢を大事にしてください。 出願前に個人面談を受けてください。考えておられる具体的な研究内容についてお話できればと思います。本学入試情報サイトよりお申し込みください。

担当教員	閻　立
テーマ	【授業概要】主に日中交流史の諸問題について討論する。 【テーマ・キーワード】テーマ:日中交流史 キーワード:史料の読み方、歴史の見方
担当科目	日中交流史Ⅰ・Ⅱ
受講についての 必要な予備知識など	【準備学習について】 予習と復習時間には６０時間必要となる。 【到達目標について】 中国史・日本史に関する基礎知識を蓄積する。また、修士論文を執筆するための資料調査方法や論文の書き方などについて積極的に学習する。
評価の方法	出席状況や発表の内容など総合的に評価する。 授業態度15%、中間発表35%、期末レポート50%
講義計画	【講義方法】 テーマを設定し、討論する。 【年間(学期)計画】 １．日中交流史の概要説明 ２．日中交流史・古代編：二十四史の中で日本に関する記述の輪読 ３．二十四史の中で日本に関する記述の輪読 ４．古代の日中関係について討論 ５．日中交流史・近代編:近代日中関係の概説 ６．１８７１年日清国交成立について ７．日清戦争前後の中国人の日本観および日本人の中国観 ８．戊戌変法と日本 ９．日本留学ブーム １０．清末の新政と日本 １１．辛亥革命と日本 １２．日清戦争と日露戦争と日中関係 １３．テーマを設定し、日中関係について発表 １４．テーマを設定し、日中関係について発表 １５．講義内容の総括
志願者へのメッセージ	出願前の個別面談を必須とします。修士論文で取り組む課題を明確にした上で、個別面談をメールによりお申し込み下さい（enritsu@osaka-ue.ac.jp）。
Instructor	Li YAN
Theme	This course explores the modern Japan-China relations. It takes as its focus the changes and transformations in the two countries over the one-hundred-year period, and how the Japanese and Chinese have faced the challenges of the modern world. Students will engage key issues in the formation of Japan and China’s modern states and societies. This will point towards an understanding of contemporary situational of Japan-China relations and the development of a program for its future. 【Keywords】 Japan, China, Modern History, Relations
Course Title	Japan-China RelationsⅠ・Ⅱ
Prior knowledge	【Self-Study】 Students need to read the primary and secondary materials in English translation. 【Objectives】 By the end of this course students are expected to have an understanding of the key struggles and structural relations between Japan and China in the modern era. They will further gain an understanding of the social and economic concerns and activities in modern Japan and China. This will inform a historical understanding of the two countries relations, helping students develop a familiarity with the issues faced in the contemporary Japan-China relationship. 【In the class】 Students will be encouraged to discuss topics, issues, and reflections on the course material.
Evalution method	Participation:25% Individual presentation:25% (During the semester students will have a presentation that will respond to a major problem or idea d) Papers:50%

Syllabus	1. Introduction: Ancient Japan-China Relations 2. A Description of Japan in Twenty-Four Histories - Part 1 3. A Description of Japan in Twenty-Four Histories - Part 2 4. Discussion and Presentation: Topics, Issues, and Reflections on Ancient Japan-China Relations 5. Introduction: Modern Japan-China Relations 6. Japan and China Establish Modern Nation State Relations: Sino-Japanese Friendship and Trade Treaty (1871) 7. The First Sino-Japanese War (1894): Learning from Japan 8. The Hundred-Days Reform Movement and Japan (1898) 9. Chinese Students in Japan after the Russo-Japanese War (1905) 10. The Xinzheng Revolution and Japan (1900-1911) 11. The 1911 Revolution and Japan: Relations between Revolutionary Parties and Japan's Government 12. Wars and Modern Relations between Japan and China 13. Discussion and Presentation: Topics, Issues, and Reflections on Modern Japan-China Relations 14. Discussion and Presentation: Topics, Issues, and Reflections on Modern Japan-China Relations 15.Final Summary: A Review of Japan-China Relations
Message for applicants	After clarifying the issues to be addressed in the master's thesis, please apply for a one-on-one interview via email (enritsu@osaka-ue.ac.jp).

担当教員	岡島　成治
テーマ	環境経済学の実証研究
担当科目	環境経済学Ⅰ・Ⅱ
受講についての 必要な予備知識など	線形代数、解析学の知識と統計学、計量経済学の基本的な知識を必要とする。英語はTOEFL８０点以上を必要とする。
評価の方法	発表および論文の内容
講義計画	１年次は環境経済学実証論文を輪読する。２年次は各自が決定したテーマに基づき、論文を執筆する。
志願者へのメッセージ	出願前の個別面談を必須とします。修士論文で取り組む課題を明確にした上で、個別面談をメールによりお申し込み下さい（okajima@osaka-ue.ac.jp）。

担当教員	小川　貴之
テーマ	【テーマ】 マクロ経済学 【授業概要】 経済成長や景気循環、景気の国際波及、金融財政政策などマクロ経済に関する諸問題を動学的一般均衡理論を用いて分析します。 【キーワード】 マクロ経済動学、国際経済学
担当科目	マクロ経済動学Ⅰ・Ⅱ
受講についての 必要な予備知識など	【準備学習について】 経済学（マクロ経済学・ミクロ経済学・計量経済学）および数学（微積分・線形代数・動学的最適化）の基礎知識を習得していることが受講の前提条件になります。 【到達目標について】 オリジナルな理論モデルを構築し、それを学術雑誌に投稿・掲載することを目指します。 【受講に際して】 以下に、事前学習のための基礎的な教科書を挙げておくので、履修の参考にして下さい。 1. 小川貴之（2012）「経済変動理論の再考」『不況の経済理論』小野善康・橋本賢一編，岩波書店，3-50頁. 2. Romer, David (2018) Advanced Macroeconomics (fifth edition), McGraw-Hill.
評価の方法	提出して頂く論文の質で評価します。
講義計画	【講義方法】 配付するレジュメにしたがって講義を進めます。また、学生の関心に応じた先行研究（教科書や論文など）の報告を行ってもらいます。 【講義計画】 教科書や論文などの先行研究を読み進め、オリジナルな理論モデルを構築します。 1. Walsh (2010, chapter 1)の講義と輪読 2. Walsh (2010, chapter 2)の講義と輪読 3. Walsh (2010, chapter 6)の講義と輪読 4. Walsh (2010, chapter 8)の講義と輪読 5. Walsh (2010, chapter 9)の講義と輪読 6-7. 研究テーマと先行研究に関する報告 8-12. オリジナルな理論モデルの構築 13-15. 論文作成 【教科書】 Walsh, Carl E. (2017) Monetary Theory and Policy, fourth edition, Cambridge, Massachusetts: MIT Press.
志願者へのメッセージ	出願前の個別面談を必須とします。修士論文で取り組む課題を明確にした上で、個別面談をメールによりお申し込み下さい（tkogawa@osaka-ue.ac.jp）。

担当教員	小川　雅弘
テーマ	国民経済計算の最近の動向
担当科目	国民経済計算論Ⅰ・Ⅱ
受講についての 必要な予備知識など	【準備学習】 テキストの当該箇所を読んで、疑問・意見等をまとめた状態で受講すること。 【到達目標】 国民経済計算論の最近の動向を理解する。
評価の方法	出席と報告･討論への参加により評価する。
講義計画	国民経済計算の最近の論点について検討する。とりわけ、金融仲介業の付加価値評価、市場外経済活動の評価、無形資産の評価に重点を置く。
志願者へのメッセージ	

担当教員	籠谷　公司
テーマ	国際関係論：ゲーム理論を用いた理論分析ならびに統計的手法を用いた実証分析
担当科目	国際関係論Ⅰ・Ⅱ
受講についての 必要な予備知識など	ゲーム理論の基本知識、統計学、計量経済学の基本知識
評価の方法	学期末ペーパー
講義計画	大学院レベルの知識量を培うために、テーマごとに相当量の文献を読み、報告してもらう。文献レビューの後、独自の研究をしてもらう。
志願者へのメッセージ	国際関係論は、欧米における研究のほうが日本よりも遥かに進んでいる研究分野です。このため、相当量の英語文献を読んで勉強する必要があります。また修士論文を書くために、ゲーム理論や統計的手法を用いた分析をしてもらいたいと考えています。この基準をクリアして自分の能力を高めたい学生だけ志望するようにしてください。

担当教員	柏原　誠
テーマ	分権型社会と地方自治ガバナンスの変容
担当科目	地方自治論Ⅰ・Ⅱ、地域調査実習
受講についての 必要な予備知識など	【準備学習について】テキストを読んでくること 【到達目標について】地方自治について基本的な知識を習得し、現代的な論点について論じられること。
評価の方法	報告や質疑応答の内容によって評価します。
講義計画	【講義方法】 輪読・ゼミ形式で行います。参加者にレジュメを作成し発表してもらいます。 【年間計画】 　分権・自治型社会の構築が課題とされる今日、中央政府と地方政府のいわゆる中央地方政府間関係のあり方のみならず、地方自治体のガバナンスそのものの変容が起こっています。つまり、地域社会の経営においての地方自治体の役割が変容し、それにともなって、市民と行政の関係も変化しつつあります。この演習では、参加者の関心に沿いながら、地方自治やガバナンス論の最新のトピックをとりあげ、文献や論文の輪読を行いながら、理論的考察まで深めていきたいと思います。 　トピックとしては、道州制・市町村合併、自治体のガバナンス改革、ニューパブリックマネジメント、住民参加、自治体政策、地方議会改革などを例としてあげることができます。
志願者へのメッセージ	旅行好きなど好奇心旺盛な人の受講を希望します。地方自治に関心を持ったのも、研究のついでに各地を回れると思ったからです。関心が合えば、研究調査旅行も企画します。

担当教員	黒坂　真
テーマ	途上国マクロ経済の模型化、金融論とマクロ経済学を学ぶ。Wendy Carlin and David Soskice, Macroeconomics, Institution, Instability, and Financial System, Oxford University Pressなどを読んでいくことを考えている。 マクロ経済の政策効果に関する議論に習熟するため、Roger E. A. Farmer, Prosperty for All, How to Prevent Financial Crisis, Oxford University Pressなども考えている。
担当科目	マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ
受講についての 必要な予備知識など	【事前学習について】 マクロ経済学、ミクロ経済学の基礎を自習すること。 【到達目標について】 途上国のマクロ経済学、金融論とマクロ経済学の文献を自分で読み進める事ができるようにする。
評価の方法	平常点を重視する。
講義計画	【講義方法】 演習生と相談し、文献の要約と報告を課す。途上国のマクロ経済モデルを扱った文献を考えている。 【講義計画】 　途上国マクロ経済模型化のために、重要な文献を受講生とともに読み進めていく。報告の機会を課すので文献を、メモをとりながら読むこと。
志願者へのメッセージ	わからない点については質問すること。数学と英語の勉強も大事である。
Instructor	Makoto KUROSAKA
Theme	This Course explores Macroeconomics in Developing Countries. In order to master methods of Macroeconomics, we read David Romer, Advanced Macroeconomics, Mcgraw-Hill Companies, Inc.
Course Title	MacroeconomicsⅠ・Ⅱ
Prior konwledge	【Self-Study】Students need to study macroeconomics and microeconomics, elementary econometrics. 【Goal of the courses】 By the end of this course students are expected to be able to make some economic models on developing countries.
Evaluation Method	Comprehensive evaluation based on attendance status and presentation contents
Syllabus	In the first year, you will learn methods of macroeconomics. You need to read many research papers concerning developing macroeconomis. In the second year, you will write master's thesis.
Message for applicants	If you are interested in this course, please don't hesitate to contact with me. Let me make your plan in this course clear.

担当教員	桑原　武志
テーマ	都市の政治と経済
担当科目	都市経済論Ⅰ・Ⅱ、地域調査実習
受講についての 必要な予備知識など	【準備学習について】当日扱う文献だけでなく関連文献も読んでおいてください。 【到達目標について】学ぶことだけでなく、自分自身の考えをもって、話す＋書くことができることです。 【その他】日本語文献だけでなく、英語論文等も読む予定です。講義前に、都市の政治・経済に関する基本的な文献を読んでおきましょう（例えば、日本語文献では、中村剛治郎編（2008）『基本ケースで学ぶ地域経済学』有斐閣を挙げておきます）。
評価の方法	報告70%（担当した分の報告をする。該当文献を読み理解しその内容を要約して伝える。討論などへの参加具合をみる。） レポート：30%（学期末にレポートを実施し、講義の理解度を確認する。積極性も評価する。）
講義計画	基本的には文献の輪読ですが、参加者と相談して決定します。 ゼミナール参加者の関心・個別テーマを聞いた上で、参加者と相談しながら、ゼミナールで学習する内容を決定します。基本的には、都市政治・都市経済に関することを学びます。文献輪読、調査を行います。
志願者へのメッセージ	「都市経済」に興味・問題意識を持って、積極的にゼミに参加しましょう。 出願前の個別面談を必須とします。修士論文で取り組む課題を明確にした上で、個別面談をメールによりお申し込み下さい（kuwahara@osaka-ue.ac.jp）。

担当教員	小巻　泰之
テーマ	日本経済における現代的な課題の理論的解明
担当科目	日本経済論Ⅰ・Ⅱ、経済調査実習
受講についての 必要な予備知識など	マクロ経済学に対する十分な知識、英語の文献を読みこなせる能力があることが望ましい。 【準備学習について】参考文献を探索し、読み込むこと。関連統計についてチェックしておくこと。 【到達目標について】金融財政政策の背景となる経済理論について理解すること。
評価の方法	レポート、プレゼンテーション、出席状況などから総合的に判断します。
講義計画	基本的には文献の輪読を行う。内容は参加者と相談して決定します。
志願者へのメッセージ	大学院と学部では授業内容は大きく異なります。自分自身で興味・問題意識を持ち、積極的な参加が求められます。

担当教員	斉藤　美彦
テーマ	ヨーロッパにおける近年の金融政策
担当科目	経済理論Ⅰ・Ⅱ、ヨーロッパ経済論Ⅰ・Ⅱ
受講についての 必要な予備知識など	金融論の基礎的知識は必須です。英語の金融関係の文献（場合によっては独語・仏語等も）を読みこなせる能力があることが望ましい。 【準備学習について】参考文献を読了し、最新の関連統計についてチェックしておくこと。 【到達目標について】金融政策の基本だけでなく、非伝統政策の特徴・波及経路・背景となる経済理論について理解すること。
評価の方法	演習への貢献度およびレポート。
講義計画	【講義方法】 講義の他、テキストについての受講生の報告をもとに議論します。 【年間計画】 第１回　イントロダクション（近年の金融政策について） 第２回　イングランド銀行の歴史 第３回　イングランド銀行の量的緩和政策（１） 第４回　イングランド銀行の量的緩和政策（２） 第５回　イングランド銀行の量的緩和政策（３） 第６回　イングランド銀行の量的緩和政策（４） 第７回　Brexitとイングランド銀行の金融政策 第８回　欧州通貨統合について 第９回　ユーロシステムについて 第10回　ヨーロッパ中央銀行の標準的金融政策 第11回　ヨーロッパ中央銀行の非標準的金融政策（１） 第12回　ヨーロッパ中央銀行の非標準的金融政策（２） 第13回　ヨーロッパ中央銀行の非標準的金融政策（３） 第14回　ヨーロッパ中央銀行の非標準的金融政策（４） 第15回　まとめ
志願者へのメッセージ	理論と現実の双方に知的な関心を持ちつつ研究を進めることが重要です。

担当教員	下山　朗　★
テーマ	わが国の財政政策と租税のあり方 講義では、租税のあり方について、基礎的なところから丹念に勉強することを中心に行うとともに、参加者の興味関心がある場合、財政政策等についても適宜、研究活動を進めていく。また、財政に関するデータ分析の手法についても学んでいきます。
担当科目	財政学Ⅲ・Ⅳ
受講についての 必要な予備知識など	学部レベルの基礎的な財政学の知識があると望ましい。また、修士論文の作成に向けて、それぞれが租税や財政政策等の興味関心を持っていることが望ましい。
評価の方法	文献の輪読や、先行研究の報告等を中心に行うため、評価方法は以下のとおりとする。 授業への参加状況や質疑応答への参加状況（３０%） 報告等の平常点（７０%）
講義計画	基本的には文献の輪読や、参加者の興味関心のある先行研究の発表を行っていきます。
志願者へのメッセージ	財政の制度そのものだけでなく、理論やデータ分析への興味関心があり、積極的に受講してくれる方を希望します。なお、出願前の個別面談を必須とします。希望する具体的な研究内容を考えた上で、個別面談をメールによりお申し込み下さい（a.shimoyama@osaka-ue.ac.jp）。

担当教員	高木　久史
テーマ	前近代日本経済史（6世紀-19世紀前半）
担当科目	日本経済史Ⅰ・Ⅱ
受講についての 必要な予備知識など	【準備学習について】 日本史に関する基礎的知識 【到達目標について】 史料的実証に基づく経済史研究の方法論を習得する。また、習得した方法論を実践できる。
評価の方法	質疑応答への参加状況:60%（質問回数1回ごとに基礎点を提供します） プレゼンテーション:20% レポート：20%
講義計画	受講者の修士論文研究の報告を行う。併行して、受講者の関心に基づき、中核的文献の輪読を行う。 【年間(学期)計画】 第１回　授業概要と計画 第２回ー第１４回　研究報告・輪読 第１５回　授業内容の確認と総括
志願者へのメッセージ	私個人の経験則では、研究成果は時間とエネルギの消費量とだいたい比例します。

担当教員	髙橋　亘
テーマ	現代の金融問題についての理論的解明
担当科目	金融システム論Ⅰ・Ⅱ
受講についての 必要な予備知識など	【準備学習について】 マクロ経済学についての十分な知識や金融問題に対する関心があることが望ましい。 【到達目標について】 金融問題についての中上級レベルの理論的基礎を取得する
評価の方法	報告内容・出席状況、取り組み姿勢などを総合的に勘案します。
講義計画	内外中央銀行や国際機関、学術論文、または内外のテキスト等を参考に、受講者の報告と討議で進めていきます。英文テキストも使用します。例えばBruunnemiierほか"The Digitalization of Money" https://scholar.princeton.edu/markus/publications/digitalization-money 受講者の関心に基づいて、テーマおよび専門的な論文の読解等を決めていきます。
志願者へのメッセージ	出願前の個別面談を必須とします。修士論文で取り組む課題を明確にした上で、個別面談をメールによりお申し込み下さい（wtaka@osaka-ue.ac.jp）。

担当教員	塚谷　文武　★
テーマ	「租税制度に関する研究」 本演習は、原則として税理士志望者の修士論文作成に対する指導を行うことを目的としている。そのため、第１に、基礎的な租税理論について検討する。第2に、１年次の後期からは各自研究テーマを設定し、定期的な研究報告を課すことになる。
担当科目	財政学Ⅰ・Ⅱ、地域調査実習
受講についての 必要な予備知識など	【準備学習】財政学に関する基礎的な知識を習得したうえで、租税に関する今日的な課題を理解しておく。 【到達目標】修士論文作成のために必要となる先行研究の整理を行い、独自の分析視角を獲得する。
評価の方法	研究報告、討論への参加及び内容、期末レポートの提出状況などから総合的に評価する。
講義計画	第1回　年間計画の説明と修士論文作成に向けた打ち合わせ 第2回ー第14回　修士論文構想の研究報告 第15回　総括と今後の研究活動の課題整理
志願者へのメッセージ	

担当教員	中尾田　宏
テーマ	金融市場についての実証分析
担当科目	金融論Ⅰ・Ⅱ
受講についての 必要な予備知識など	中級および上級のミクロ経済学、マクロ経済学、計量経済学、金融論、ファイナンス論、および統計学、数学の基礎知識を習得していることを履修の前提条件とします。
評価の方法	論文の内容で判断します。
講義計画	金融市場について実証分析を行います。金融の基礎理論の習得および分析手法を学ぶため、以下のいずれかの文献を学んでいきます。 Campbell, J.Y., Lo, A.W. and MacKinlay, A.C. (1997) The Econometrics of Financial Markets, Princeton University Press. Cuthberton, K. and Nitzsche D. (2004) Quantitative Financial Economics: Stocks, Bonds and Foreign Exchange 2nd edition, John Wiley&Sons. Munk, C. (2013) Financial Asset Pricing Theory , Oxford University Press. なお、講義は履修者による報告を中心に行う。
志願者へのメッセージ	本演習では、中級および上級のミクロ経済学、マクロ経済学、計量経済学、金融論、ファイナンス論の知識をもとに、金融市場についての実証研究を行っていきます。

担当教員	二本杉　剛
テーマ	社会行動や制度設計に関する実験手段を用いた分析
担当科目	行動経済学、実験経済学
受講についての 必要な予備知識など	【準備学習について】 ミクロ経済学、ゲーム理論、計量経済学の基礎的な知識 【到達目標について】 各自のテーマに沿って自ら実験計画を作成するだけでなく、実際に実施し、データを分析し、論文として完成させることができるようになることを目標とする。
評価の方法	発表及び論文の内容
講義計画	1年次は実験経済学や行動経済学に関する論文を輪読する。2年次は各自が決定したテーマに基づき、修士論文を執筆する。
志願者へのメッセージ	出願前の個別面談を必須とします。修士論文で取り組む課題を明確にした上で，個別面談をメールによりお申し込み下さい（tnihon@osaka-ue.ac.jp）

担当教員	野崎　華世
テーマ	雇用関係及び労働・教育政策に関する実証分析
担当科目	労働経済論Ⅰ・Ⅱ
受講についての 必要な予備知識など	【準備学習について】 ミクロ経済学、労働経済学、統計学、計量経済学の基礎知識、英語文献を理解できる英語力 【到達目標について】 労働経済学に関する実証論文を作成するためのスキルを身につける。
評価の方法	授業内での報告及びレポート・論文
講義計画	【講義方法】 履修者による発表形式 【年間計画】 1年次は、労働経済学の英語文献を輪読した後、労働経済学に関する学術論文を履修者が発表し、修士論文のテーマを固める。同時に実証分析の手法についても学んでいく。 2年次は、それぞれのテーマに基づき、修士論文を作成する。
志願者へのメッセージ	

担当教員	萩原　誠
テーマ	メカニズムデザイン
担当科目	ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ
受講についての 必要な予備知識など	【準備学習について】 数学（集合と位相、解析学、線形代数など）・ミクロ経済学（神取, 2014; 石井・西條・塩澤, 1995など）・ゲーム理論（武藤, 2011など）の分野に関する初級～中級程度の知識、英語の本や査読付き学術雑誌に掲載されている論文を自身で読むためまた簡単な日常会話や研究発表するための基礎的な英語力。 【到達目標について】 （１年目）輪読を通じて、ミクロ経済学（Mas-Colell, Whinston, and Green,1995; Varian,1992など）・ゲーム理論（岡田,2011など）・メカニズムデザイン （坂井・藤中・若山, 2008など）に関する上級の知識を得る。これらは、自身の研究を進める際の基礎になる。 （２年目）１年目で学んだ基礎知識をもとに査読付き学術雑誌に掲載されている論文を読み進めて、受講者自身が関心のある問題を見つける。先行研究の問題点を見つけて、かつ新しい発想を生み出して、自身の論文を作成できるようになる。
評価の方法	発表と受講者自身の論文内容
講義計画	学生と相談の後に、輪読を進めていく本または論文を決めて、発表をしてもらう。
志願者へのメッセージ	興味を持った方はメールで私の方に連絡をとり、一度直接あって相談させてください。もし出願を決めた場合、事前に今後の方針等をある程度決めておきましょう。また、入学後の海外（特にアメリカ）への留学も一つの選択肢として頭の中に入れておいてください。
Instructor	Makoto Hagiwara
Theme	Mechanism Design
Course Title	MicroeconomicsⅠ・Ⅱ
Prior knowledge	【Prerequisites and Preparation】 1,Intermediate-level knowledge regarding mathematics (Sets and topology, mathematical analysis, linear algebra, and so on), Microeconomics (Kandori 2014; Ishii, Saijo, and Shiozawa 1995; and so on), game theory (Muto 2011 and so on). 2, Knowledge in basic English in order to read books and papers published in peer-reviwed journals and make presentations or discuss in English. 【Goals】 First year: Read several advanced-level books regarding Microeconomics (Mas-Colell, Whinston, and Green,1995; Varian,1992; and so on), and game theory (Okada 2021 and so on), and mechanism design (Sakai, Fujinaka, and Wakayama 2008 and so on) for your researches. Second year: Based on knowledge that you had in the first year, read papers published in peer-reviwed journals and find open questions that you have interests. Then, proceed your original researches.
Evalution method	Presentations and original researches
Syllabus	Select books by discussing with students and make presentations
Message for applicants	If you have interests on this course, please first contact me. Let us make your plan in this cource clear. In addition, I recommend that you consider studying abroad for your researches especially in United States.

担当教員	橋本　和彦
テーマ	社会選択理論、メカニズム・デザイン理論
担当科目	経済学のための数学Ⅰ・Ⅱ
受講についての 必要な予備知識など	【準備学習について】 ミクロ経済学、ゲーム理論、集合論、位相、解析については事前にマスターしておくこと。 【到達目標について】 一流の研究者になる！
評価の方法	執筆した論文のオリジナリティを評価する。
講義計画	国際査読付きジャーナルへ投稿可能な論文執筆を目指す。 経済学・数学に関して高い水準が要求される。
志願者へのメッセージ	

担当教員	花登　駿介
テーマ	ゲーム理論・ミクロ経済学の手法を用いた戦略的状況の考察
担当科目	公共経済学Ⅰ・Ⅱ
受講についての 必要な予備知識など	【準備学習について】 経済学・ゲーム理論・数学に関して事前に十分に理解していることが求められる。また、論文読解・研究に必要となる十分な英語の理解力・表現力が求められる。 【到達目標について】 輪読を通して論文テーマに関する理解を深める。最終的に新規性のある論文を執筆できるようになることを目標とする。
評価の方法	研究報告と受講者の論文内容に基づく。
講義計画	論文テーマに関連する文献の内容や自身の研究進捗を適宜報告してもらう。
志願者へのメッセージ	出願前の個別面談を必須とします。研究テーマを具体的に考えた上で、個別面談をメールによりお申し込み下さい（s.hanato@osaka-ue.ac.jp）。 論文を執筆するには継続的な努力が求められます。そのため、講義に臨む際は入念な準備をお願いします。

担当教員	林　遵
テーマ	マルクス「貧困化法則」の再検討としておきますが、受講生の研究テーマに合わせるようにします。
担当科目	経済理論Ⅴ・Ⅵ、外国文献研究Ⅰ・Ⅱ（日本書）
受講についての 必要な予備知識など	【準備学習について】 　テキストの線引き、読書ノートの作成、研究史のサーヴェイランス、論点の確認、受講者自身の疑問点のまとめなど。 【到達目標について】 　『資本論』第１巻の「資本主義的蓄積の一般法則」の解釈をめぐる論争を通じて、この法則の現代的意義を検討すること。
評価の方法	平常点評価
講義計画	【講義方法】 　読書報告会形式とします。あらかじめ担当箇所を決めて報告をしてもらい、質問や論点の確認をしたいと思いますが、講義方法についても受講者と相談します。 【講義計画】 　マルクスが『資本論』第1巻第23章で展開した「資本主義的蓄積の一般法則」は、「貧困化法則」と名づけられ、修正主義論争以来その解釈をめぐって活発な議論がなされてきたことは周知の通りである。 　わが国でも特に戦後段階において数多くの業績が発表されてきたが、高度経済成長を経て1970年代に入ると、「一億総中流」の意識の中で議論は衰えを見せ、1980年代には途切れたかのように思われた。 　しかしバブル崩壊と平成不況のあとに、若年層を中心に再び労働者階級の貧困が社会問題化している。 　本演習ではいったん解消されたかのように見えた貧困がいまなぜ発現しているのか、そのメカニズムはいかなるものか、翻ってなぜかつては労働者の富裕化が可能であったか、現代の貧困問題が資本主義的蓄積の一般法則といかなる関連を持つものなのかを基本的な文献を読みながら考察していきたい。 　当初は代表的な文献のサーヴェイに重点を置くが、次第に受講生の報告に力点を写して修士論文の作成に向かう予定である。
志願者へのメッセージ	必要な文献をできるだけ早く集め、目を通しておいてください。

担当教員	林　由子
テーマ	ベイズ統計学に基づいた実証研究
担当科目	計量経済学Ⅰ・Ⅱ、外国文献研究Ⅰ・Ⅱ（英書）
受講についての 必要な予備知識など	【準備学習について】 基本的な統計的推論。 【到達目標について】 ベイズ統計学に基づく経済モデルの推定、評価。
評価の方法	発表およびレポート
講義計画	【講義方法】 文献の輪読および研究報告
志願者へのメッセージ	出願前の個別面談を必須とします。修士論文で取り組む課題を明確にした上で、個別面談をメールによりお申し込み下さい（yhayashi@osaka-ue.ac.jp）。

担当教員	福本　智之
テーマ	近年の内外中央銀行の金融政策
担当科目	金融政策論Ⅰ・Ⅱ
受講についての 必要な予備知識など	【準備学習について】 学部レベルの金融政策論やマクロ経済学についての十分な理解や金融問題に対する関心があることが望ましい。 【到達目標について】 世界の中央銀行が現在行っている伝統的・非伝統的金融政策とその論点を理解する
評価の方法	報告内容・出席状況、取り組み姿勢などを総合的に勘案します。
講義計画	内外中央銀行や国際機関、学術論文、または内外のテキスト等を参考に、受講者の報告と討議で進めていきます。英語や中国語のペーパーも使用する可能性があります。
志願者へのメッセージ	出願前の個別面談を必須とします。修士論文で取り組む課題を明確にした上で、個別面談をメールによりお申し込み下さい（t.fukumoto@osaka-ue.ac.jp）。
Instructor	Tomoyuki Fukumoto
Theme	Monetary policy conducted by world central banks in recent years
Course Title	Monetary Policy Ⅰ・Ⅱ
Required knowledge in advance and goal of the course	【Required knowledge in advance】 Students should have basic knowledge of macroeconomics and monetary policy theory. They also should have interest in financial issues. 【Goal of the course】 By the end of this course, students are expected to understand the framework of conventional and unconventional monetary policy and its pros and cons.
Evalution method	Evaluation based on attendance status and presentation contents.
Syllabus	Students are expected to join discussions and write reports, with reference to papers and materials published by central banks, international organizations and academia.
Message for applicants	After clarifying the issues to be addressed in the master's thesis, please apply for a one-on-one interview via email (t.fukumoto@osaka-ue.ac.jp).

担当教員	福本　幸男
テーマ	国際金融に関する理論および実証分析に基づいた修士論文の指導
担当科目	国際金融論Ⅰ・Ⅱ
受講についての 必要な予備知識など	【準備学習について】 国際金融を修士論文で扱うにあたって、ある程度の経済学の知識を必要とします。 【到達目標について】 国際金融の知見に基づいて修士論文を完成させることを目指します。
評価の方法	演習での報告(50%）と課題レポート(50%）で評価します。
講義計画	【講義方法】 学生に合わせて、修士論文を書くうえで必要な知識を指導します。 【年間(学期)計画】 （1）国際金融の関心の高いテーマについての講義：為替レートの決定理論 （2）受講生による為替レートの決定理論についてのレポート報告 （3）国際金融の関心の高いテーマについての講義：為替相場制度の歴史 （4）受講生による為替相場制度の歴史についてのレポート報告 （5）国際金融の関心の高いテーマについての講義：最適通貨圏 （6）受講生による最適通貨圏についてのレポート報告 （7）国際金融の関心の高いテーマについての講義：通貨危機 （8）受講生による通貨危機についてのレポート報告 （9）国際金融の関心の高いテーマについての講義：外国為替市場介入 （10）受講生による外国為替市場介入についてのレポート報告 （11）国際金融の関心の高いテーマについての講義：国際的な経済政策協調 （12）受講生による国際的な経済政策協調についてのレポート報告 （13）国際金融の関心の高いテーマについての講義：国際マクロ経済学 （14）受講生による国際マクロ経済学についてのレポート報告 （15）受講生自身の関心のある研究分野についての研究報告
志願者へのメッセージ	

担当教員	藤本　髙志
テーマ	農村経済の発展と成長に関する実証的分析
担当科目	農業経済論Ⅰ・Ⅱ
受講についての 必要な予備知識など	【準備学習について】 ミクロ経済学、マクロ経済学、線形代数、計量経済学の基礎知識 【到達目標について】 農村地域における産業連関表を推定し，農林水産業と地域経済のリンケージを評価し，農林水産業の前方連関効果・後方連関効果を計測し，農村地域経済の発展のための政策を評価できる．
評価の方法	授業での発表態度と出席状況
講義計画	1年次は，市町村の産業連関表の推定方法と地域産業連関分析について学び，２年次では，その知識を活用し，農林水産業と地域経済のリンケージの評価，農林水産業の前方連関効果・後方連関効果の計測，農村地域経済の発展のための政策評価に取り組む．
志願者へのメッセージ	出願前の個別面談を必須とします。修士論文で取り組む課題を明確にした上で，個別面談をメールによりお申し込み下さい（tfuji@osaka-ue.ac.jp）
Instructor	Takashi Fujimoto
Theme	Empirical analysis of rural economic development and growth
Course Title	Agriculyural Economics Ⅰ・Ⅱ
Required knowledge in advance and goal of the course	【Required knowledge in advance】 Basic knowledge of microeconomics, macroeconomics, linear algebra, econometrics 【Goal of the course】 By the end of this course students are expected to be able to estimate the input-output table in rural areas, evaluate the linkage between agriculture, forestry and fisheries and the regional economy, measure the forward and backward linkage effects of agriculture, forestry and fisheries, and evaluate policies for the development of rural economies.
Evalution method	Comprehensive evaluation based on attendance status and presentation contents
Syllabus	In the first year, you will learn how to estimate the input-output table in rural areas and regional economic analysis using the input-output table.In the second year, you will utilize the input-output table in rural areas and evaluate the linkage between agriculture, forestry and fisheries and the regional economy, measure the forward and backward linkage effects of agriculture, forestry and fisheries, and evaluate policies for the development of rural economies.
Message for applicants	After clarifying the issues to be addressed in the master's thesis, please apply for a one-on-one interview via email (tfuji@osaka-ue.ac.jp).

担当教員	藤原　忠毅
テーマ	国際経済学に関する理論的研究
担当科目	国際経済論Ⅰ・Ⅱ
受講についての 必要な予備知識など	【準備学習について】 経済数学（線形代数および微分）、ミクロ経済学、マクロ経済学についての基礎的な知識 【到達目標について】 （１年次） 国際経済学への理解を深め、修士論文を書くための準備を行う。 （２年次） 英語の文献も含め読みこなし、経済学的な分析に基づいて修士論文を仕上げる。
評価の方法	講義への出席および報告をもって評価する。
講義計画	国際経済学を基礎としながら、2年間を通じて報告を重ねていく。基本的には、理論的な側面を重視したい。 テーマとしては、戦略的貿易政策・戦略的企業間関係、あるいは貿易と環境などを考えている。
志願者へのメッセージ	受講者は、ミクロ経済学、マクロ経済学、国際経済論Ⅰ･Ⅱを履修することが望ましい。

担当教員	森　詩恵
テーマ	【テーマ】わが国における社会政策の動向 【授業概要】わが国の社会政策の現状を把握したうえで、修士論文のテーマにつながる課題を見つけ出す。
担当科目	社会政策論Ⅰ・Ⅱ、地域調査実習
受講についての 必要な予備知識など	【準備学習について】社会保障論、労働経済論も受けることが望ましい。 【到達目標について】わが国における社会政策の現状を仕組みとともに理解する。
評価の方法	ゼミナールでの報告内容、議論への貢献度によって行う。
講義計画	【授業方法】 各自の研究テーマに関する論点を見つけだせるよう、先行研究を収集しその分析･報告を行う。そのうえで、実証分析などの指導も行う。 【年間計画】 1.　演習計画の説明 2.　社会政策の概説① 3.　社会政策の概説② 4.　わが国の労働政策の現状① 5.　わが国の労働政策の現状② 6.　わが国の労働政策の現状③ 7.　わが国の社会保障政策の現状① 8.　わが国の社会保障政策の現状② 9.　わが国の社会保障政策の現状③ 10.　わが国の社会福祉政策の現状① 11.　わが国の社会福祉政策の現状② 12.　わが国の社会福祉政策の現状③ 13.　各自のテーマに沿って、論文を収集・まとめ、報告を行う① 14.　各自のテーマに沿って、論文を収集・まとめ、報告を行う② 15.　演習内容の確認と今後の課題について
志願者へのメッセージ	

担当教員	山本　正
テーマ	近代ヨーロッパ世界史の諸問題を検討する
担当科目	西洋史Ⅰ・Ⅱ
受講についての 必要な予備知識など	【準備学習】英文の専門文献を読解できる英語力と近代ヨーロッパ世界史に関する基礎知識を身につけておくこと。 【到達目標】歴史学研究の基礎を身につけるとともに、自らの選んだテーマについて修士論文を書けるようになる。
評価の方法	発表の出来、議論への参加度など総合的に評価する。
講義計画	【授業方法】 受講生の発表をもとに議論する。 【年間計画】 　まずゼミ生各自の修士論文テーマの発見に資するような基本文献を読み進めていくとともに、ゼミ生には自己のテーマを確立してもらう。そのうえで、それぞれのテーマに必要な文献・史料の検索方法、論点の整理、論の展開など、修士論文完成までの指導を行う。
志願者へのメッセージ	出願前の個別面談を必須とします。修士論文で取り組む課題を明確にした上で、個別面談をメールによりお申し込み下さい（yamamoto@osaka-ue.ac.jp）。

担当教員	吉田　建一郎
テーマ	20世紀の中国経済史
担当科目	アジア経済史Ⅰ・Ⅱ
受講についての 必要な予備知識など	英語や中国語で書かれた論文を読める語学力があることがのぞましい。
評価の方法	出席、予習、報告の状況をもとに総合的に評価
講義計画	次の3点を軸に進める予定である。 ①研究史の把握　②概説書、「講座」、論文の輪読　③個人研究の進行状況報告
志願者へのメッセージ	学位論文の完成まで粘り強く努力をする気持ちをもつことが大切です。

担当教員	林　明信
テーマ	ネットワーク産業と企業の経済学
担当科目	産業組織論Ⅰ・Ⅱ
受講についての 必要な予備知識など	【準備学習について】 【到達目標について】 経済学的な視点から、ネットワーク産業の現状と課題を把握すること
評価の方法	先行研究のサーベイ･レポート
講義計画	産業組織論の演習では、ネットワーク産業を研究対象とする。具体的には、電気通信・情報、電力、郵便、交通、上下水道、金融などの産業が中心となる。演習の目標として、ネットワーク産業の分野において、社会的に望ましい産業政策の立案や実行に貢献できるような研究論文の作成を目指している。1年次では、受講生が中心となり、関連分野の先行研究をサーベイする。その内容を報告しながら、研究の背景と問題意識を身につける。2年次では、研究論文の作成に取り掛かる。
志願者へのメッセージ	（１）出願前の個別面談を必須とします。修士論文で取り組む課題を明確にしておいて下さい。 （２）専門とする分野の英語文献の読解力があると望ましい。

【2022年度不開講】

担当教員	内山　一幸
担当科目	日本史Ⅰ・Ⅱ
担当教員	梅　村　　仁
担当科目	都市政策論Ⅰ・Ⅱ
担当教員	漆　さき　★
担当科目	税法Ⅰ・Ⅱ
担当教員	紙屋　英彦
担当科目	統計学Ⅰ・Ⅱ
担当教員	重光　美恵
担当科目	国際教育開発論Ⅰ・Ⅱ
担当教員	広瀬　浩介
担当科目	流通経済論Ⅰ・Ⅱ
担当教員	藤井　大輔
担当科目	中国経済論Ⅰ・Ⅱ
担当教員	水野　伸宏
担当科目	開発経済論Ⅰ・Ⅱ
担当教員	山本　俊一郎
担当科目	経済地理学Ⅰ・Ⅱ